

1 主題名 素直にあやまる 2—（3）友情

2 資料名 けんか（日本標準）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

交友関係がどんどん広がり、どの子も友達がほしい、楽しく関わり合いたいという欲求をもっている。しかし、自己中心的な面もあり、相手の立場を理解できずに些細なことでけんかになってしまうことが少なくない。この資料のユーモアを含んだ人との関わり方、けんかの処置の仕方を通して、より深く友達とつながり合うことができることを知り、日常生活の中で主体的に問題を解決していく態度を養いたい。

（2）児童について

低学年では、理由のはっきりしない、ちょっとした友達へのいたずらやけんかが日常的に起きる。

（中略）

その意味で、資料の二人のように明るくけんかを処理していく方法を、役割演技で体験させることは大切である。

（3）資料について

掃除の時間に、友達と関わりをもとうとしたことがけんかに発展してしまう話である。学校生活の中で身近に起こっているトラブルが取り上げられており、低学年らしい心理と発達に即して、仲直りの仕方がほほえましく描かれている。資料の内容を読み取り、登場人物の気持ちになって話し合っていく中で、相手を思いやる友情という道徳的価値に気付かせたい。

（4）指導について

資料を前半で扱い、登場人物の行動を自分に置き換えて考えていきながら、けんかを通して相手の気持ちを知り、より仲良くなれることもあることをとらえさせる。そして、友達と関わり合う場面で、けんかになったときどうしたらよいかを、エンカウンターのエクササイズにより体験する。資料によって感じたことを実際の生活の中で活かしていくためのスキル習得がねらいである。

エクササイズでは、はじめにけんかがエスカレートするような言葉や言い方をしてみる。その後で、けんかにならないような言葉や言い方をする。両方の言い方を体験し、望ましい解決の仕方について考える。頭では分かっているでも実際のけんかの場面になったら、なかなか解決できるものではないが、様々な解決方法を考え、体験を積んでいくことで、友達との望ましい関わり方を学んでいけるのではないかと考える。

4 本時のねらい

友達との交わりでけんかになったとき、その処理の仕方を考え、解決する体験を通して、より深く友達とつながろうとする態度を育てる。

5 準備物

資料の絵、ランドセル、ぞうきん、けんかの場面の絵、怒った顔のお面、優しい顔のお面  
ワークシート

6 本時の展開

主な発問と予想される児童の反応	支援（・）と評価（☆）
<p>1 けんかをした事例を発表する。</p> <p>○どんなけんかをしましたか。どんな理由でしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みに、入れてと言ったのに遊んであげないと言われてけんかになった。</li> <li>・体育の時間に、押されてけんかになった。</li> </ul> <p>○けんかの後、どうになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生に言って、おたがいにあやまって仲直りした。</li> <li>・今もけんかしている。仲直りしていない。</li> </ul> <p>2 資料「けんか」を読んで二人のけんかについて考える。</p> <p>○けんかの原因は何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はらや君がランドセルをぞうきんでふいた。</li> <li>・青木君もやりかえした。</li> </ul> <p>○青木君はなぜ怒ってしまったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今度はつばをつけてふいたから。</li> <li>・はらや君からしてきたのに、先生にいつけたから。</li> </ul> <p>3 役割演技で、解決の方法を考える。</p> <p>○役割を交代してやってみて、感想を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先にやってしまった自分が悪かった。</li> <li>・やり返さなければ、相手も怒らなかつただろう。</li> <li>・先生に言いつけたのは悪かった。</li> </ul> <p>○どうすればけんかにならなかつたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒って仕返しをする前に、どうしてしたのかわけを聞いてあげればよかつた。</li> <li>・本当は意地悪でやったのではないことを分かつてあげればけんかしなくてすんだ。</li> </ul> <p>4 けんかをなくす方法を考え、練習する。</p> <p>○「けんかをなくそう大きくせん！」をしてみましよう。</p> <p>①たたいた、たたかないでけんかをしているけんじ君とたかし君になってロールプレイングをする。</p> <p>ア「けんじ、たたいただろう！」（怒って言う）</p> <p>イ「けんじ君、手が当たったよ。どうかしたの？」 （優しく言う）</p> <p>②アとイで言われたときのたかし君のせりふを考える。</p> <p>ア「たたいてなんかいけないよ！」（怒って言い返す）</p> <p>イ「本をとろうとしたんだ。ごめんね。」（謝る）</p> <p>③けんかになりそうな場面での言い方をワークシートに書いて、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横入りされたとき「じゅんぼんにならんでね。」</li> <li>・ぶつかって筆箱を落とされたとき「あわてていたんだね。」 「おちやすいところにおいておいたぼくもわるかつたよ。」</li> </ul> <p>5 授業をふり返り、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けんかをした場、状況などを具体的に知らせる。</li> <li>・理由がはっきりしないときは、分かる範囲で出させ、ちょっとしたことでけんかになることに気付かせる。</li> <li>・すぐにけんかをしてしまう2～3名の児童の事例が多く出ると思われるので、配慮する。</li> <li>・初めは、けんかというより関わりたいがための小さいたづらが原因だったことに気付かせる。</li> <li>・二人組で役割演技をして、そのときの気持ちを発表させる。</li> <li>・立場が変わって気がついたことを発表させる。</li> <li>・けんかの状況が分かる場面絵を掲示する。</li> <li>・代表の児童に怒った顔と優しい顔のお面をつけて、せりふを言わせた後、どんな気持ちかを確かめる。</li> <li>・せりふは吹き出しにして黒板に貼る。</li> <li>・隣りと二人組でアとイのせりふを言う。役を交代し、相手の気持ちも考えるようにする。</li> <li>・怒った顔のお面と優しい顔のお面をつけかえて、変身した気持ちを体験させる。</li> <li>☆けんかを解決するためのせりふに、相手のことを理解しようという気持ちが表れている。（ワークシート、発表）</li> <li>・時間がない場合は後で書かせる。</li> </ul>

7 授業の観点

エンカウンターエクササイズを取り入れたことは、道徳的価値に気づき、実践的な態度を養うために効果的だったか。